

平成27年5月19日

No. 40

# 日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

## 理数アカデミー合同入校式

### 理科クラス・数学クラス・テーマ研究

5月17日(日)、理数アカデミー合同入校式を日立市教育プラザで行いました。今年で7年目を迎えます。来賓として日立市教育委員会中山俊恵教育長、記念講話として淑徳大学客員教授・横山裕道先生をお迎えして実施しました。この事業は、理科クラス・数学クラスとテーマ研究の3つのコースに分かれ、受講生の延べ人数は68名です。今年度のテーマ研究のコースは、昨年度からの継続受講生5名で4月から既にスタートしています。今年度の新規受講生は、理科クラス・数学クラスの中から数名を募り、7月から開始予定です。

講師陣は、日立製作所グループOB等のシニアエンジニア、理工学博士、技術士で、約30名の講師が各々の専門性を活かし、学校での学習とは違った角度からより理論的・探究的な内容に踏み込んだ活動を展開していきます。この事業は、日立理科クラブの活動の大きな柱の1つです。生徒や保護者にもその活動の様子が浸透してきていて、理数アカデミーでぜひ勉強したいという意志の強い生徒が増えています。未来を担う科学者の誕生を期待したいですね。

記念講話の横山裕道先生は、数学クラス担当責任者の宮寺博講師の大学時代の友人で、宮寺さんの薦めで記念講話をすることになりました。「科学の世界の面白さ」という演題で、約1時間生徒たちに分かりやすい語り口でお話をしていました。

ノーベル賞に関する話では、日本人の受賞者が増えてきたことやノーベル賞の裏話など、ユニークな視点から述べていました。横山先生は、東京大学・理学部出身ですが、新聞社に勤務し科学ジャーナリストとして活躍され、取材の中で得た資料をもとに貴重なお話を伺うことができました。これからの研究分野で注目されている、生命科学や宇宙科学の分野の内容を生徒たちに分かりやすく話し、科学者としての心構えとして、広い視野を持つことの大切さや科学者の前に人格者であることの重要性を強調していました。

受講生を代表して、久慈中3年・高橋龍世君から次のような抱負が述べられました。

「前略… 私は、中学1年からこの理数アカデミーに入校しました。小学生の頃から、教科の中でも理科や算数が好きで、更に知識を広げたいと思ったのがきっかけでした。初めの頃は、授業についていけないのか、少し心配でしたが、先生方の熱心な指導のおかげで、学校の授業で教わる範囲以上の知識を得ることができました。夏休み期間中に取り組んだテーマ研究では、とても貴重な経験することができました。1年のテーマ研究『速度制御できるモーターカーの製作』では、電子回路やオシロスコープに触れ、電気工学への興味を深めることができました。リモコンで速度制御できるモーターカーを完成させ、その研究論文を科学技術振興機構が主催する研究発表会に出展し、優秀賞を頂くことができました。中略… 3年の今年度は、受験生になるので、これまで以上に勉強に力を入れ、理数アカデミーからたくさんの知識を吸収し、受験に備えたいと思います。後略…」



理科クラス 1年15名 2年20名 3年4名



数学クラス 1年13名 2年11名 3年0名



テーマ研究 2年3名 3年2名

文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一  
日立理科クラブ事務所 TEL/FAX 0294-24-3104